

千葉県スマート水産業推進方針の策定について

水産資源の持続的な利用や水産業の成長産業化を実現するためには、水産新技術を活用したスマート水産業を推進することが重要です。
 このたび、水産現場への新技術の実装を加速化できるよう、漁業者、民間企業、研究機関（水総研など）、行政機関の関係者が目標や方向性を共有し、体系的に推進する「千葉県スマート水産業推進方針(案)」を策定しました。
 今後、本審議会やパブリックコメントにおけるご意見を踏まえ、方針を策定・公表することとします。

【千葉県スマート水産業推進方針（案）の概要】

1 スマート水産業の推進による改善効果

- (1) 水産資源の維持増大 （資源評価の充実と資源の適切な管理による資源の持続的な利用を実現）
 - ・水揚情報を電子的に収集し、資源評価の充実や数量管理の実施により資源の持続的利用が可能
- (2) 漁業所得のアップ （効率的な操業や販売による生産性の向上を実現）
 - ・水温・潮の流れを数日先まで予測、漁場探索の効率化による燃油削減など生産性が向上
- (3) 担い手の確保と育成 （ベテラン漁業者の漁業技術を電子情報で伝承し活用することを実現）
 - ・デジタル操業日誌による操業記録を活用し、後継者へ漁場探索などの技術を伝承

2 新技術実装の推進

- (1) 目標：
 - ・漁業者が自立的にスマート水産業を実践できるよう人材の育成など推進する基盤づくりを行う
 - ・民間企業と漁業者との活動を推進し、水産現場への新技術の実装を加速化する

(2) 具体的な展開の進め方

①民間企業等がもつ新技術を本県水産現場に導入

●スマート化を推進する人材の育成

- 【課題】
- ▶ 漁業者は新技術を導入する際のコストに見合う効果が得られるかどうか不安がある
 - ▶ 漁業者は漁場位置や水揚げなど操業情報の共有に抵抗があるとともに、情報提供した場合にデータがどこまで広がってしまうか不安がある

・新技術に対する負の先入観の払拭 使いこなせない・コスト高・情報流出

【新技術を知る】 研修会、現場説明会

- ▶ 漁業者が新技術や成功事例を学ぶことができる研修会を開催
- ▶ 操業情報などのデータを提供することのメリットや、データ保護の仕組みを説明

・スマート技術を身近なものとして実感 成果を共感・技術者との信頼関係

【新技術を試す】 実証試験に参加

- ▶ 水産現場のニーズを踏まえた民間企業が、漁業者と協働して実証試験を実施、効果を評価するなど、漁業者に体験の場を与える

・現場にスマート化を分かりやすく伝える 現場漁業者がスマート化に協力

【新技術を導入・普及する】

- ▶ 成功事例を各水産現場のニーズに合わせて横展開
- ▶ 必要に応じて機器導入に係る支援

基盤づくりのポイント

- ①漁業者と技術者の信頼関係構築
- ②企業が漁業現場のニーズを的確に把握する環境づくり
- ③現場をけん引できる漁業者のキーパーソンを育成

②県が主体に取り組む新技術の開発・導入

●国と連携した情報システムの構築とデータのフル活用

I C Tを利用して水揚情報を電子的に収集する「漁獲報告システム」の構築により、資源評価の充実や数量管理を実施するとともに、データをフル活用した漁業の生産性の向上や水産物の高付加価値化を支援する。

●県が提供する海況情報等の高度化（水産情報ネットワークの情報強化）

千葉県水産情報通信センターが漁業者向けにホームページで情報提供している気象・海況情報等について、水温・潮流の予測情報を新たに提供するなど高度化を図る。

また、水産総合研究センターが提供する情報も同ホームページで閲覧できるワンストップ化や、スマートフォン対応など利便性の向上を図り、これらの取組により漁業者の操業効率化を支援する。

(3) 推進体制

①県の役割

- ▶ 漁業者等の主体的な取組を促すモチベーター
 - ▶ 漁業者等と技術者との橋渡しをするコーディネーター
 - ▶ 新技術導入を支援
 - ▶ 自ら I C T等を活用し技術開発や情報提供を行うプレーヤー
- ※モチベーター：やる気を引き出させる人、やる気をコントロールする人。

②漁業者、漁協、水産加工業者、流通販売業者の役割

- ▶ 自らの課題・ニーズや現場の状況を技術者や行政に伝える
- ▶ 新技術の情報を積極的に収集し、実証試験への参加や導入に取り組む
- ▶ 現場の意見を集約・牽引し、新技術の導入・普及に貢献するキーパーソン

③民間企業、国研究機関、大学等の技術者の役割

- ▶ 本県水産業の課題解決につながる技術・サービスの開発、実証、導入に当たっての技術的な支援
- ▶ 研修会や説明会において新技術や成功事例を紹介する専門家としての役割

●推進体制



3 今後のスケジュール

- (1) 11月11日～12月10日 パブリックコメント
- (2) 12月下旬 方針策定・公表

1 本県に導入が見込まれる水産業の新技术 実装に向けたロードマップ（案）

開発 実証 導入・普及（横展開）

分野	技術	スケジュール						R 8～1 2
		方針期間						
		スマート化を実践できる人材育成等基盤づくり						
		水産現場への新技术の実装を加速化						
		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
漁船漁業	漁獲報告システム							横展開・改良・新技术の導入を進める
	漁海況予測システム							
	デジタル操業日誌							
	簡易A I S※ A I Sアプリ							
	アシストスーツ							
定置網漁業	定置網モニタリングシステム							
	急潮予測システム							
養殖業	I C Tブイ							
磯根・採貝藻漁業	ドローンを活用した藻場調査							
	ドローンを活用した密漁監視							
内水面漁業	ドローンを活用したカワウ被害対策							
流通加工	電子商取引							
	漁獲番号伝達の電子化							

※ A I S：船舶自動識別装置 船舶の衝突防止等を目的とした無線設備

2 本県で開発や実証に取り組んでいる新技术の事例

